

東京近郊で越冬するオナガガモ個体群の性比の偏り

○石鍋慎也・森貴久(帝京科学大学)・杉森文夫・山岸哲(山階鳥研)

オナガガモ(*Anas acuta*)は、越冬のため日本に渡来し春になると繁殖地へ戻る。2002年の調査によると、東京近郊の水域に渡来したオナガガモの性比は、場所によってオスに偏っていたりメスに偏っていたりした。オナガガモ個体群の性比が場所によって異なるというこの結果を踏まえ、同様の調査を2003-2004年の冬に行ない、性比の偏りの季節変化とその要因について考察した。本調査では、2002年の各オナガガモ渡来地の調査結果から、性比が<、=、>だった場所の中から、観測が比較的容易な湖沼人工池のみを3カ所ずつ、計9地点を選び、うち2カ所ずつ(計6カ所)については月1回、1カ所ずつ(計3カ所)については週1回の頻度で性比をルートセンサス、定点センサスで11月第3週から2月第4週まで調べた。渡来が確認された8カ所についての結果は以下の通り：(1)2002年1-2月の調査時と違う性比の傾向を示した場所は3カ所で、5カ所では前年と同じ傾向を示した[表]。(2)ある場所での性比の傾向は原則としては越冬初期から一貫していた。(3)調査地全体としては11月のみ、雌比率が有意に大きかった。

調査地	♂		♀	計	♂比率 (%)	2項検定	性比判断		♂		♀	計	♂比率 (%)	2項検定	性比判断	一貫性
香澄公園	145	<	259	404	35.8	※※※	♂ < ♀		133	<	373	506	26.3	※※※	♂ < ♀	有
浮間公園	135	>	123	258	52.3		♂ = ♀		125	>	69	194	64.4	※※※	♂ > ♀	無
不忍池	1391	>	1078	2469	56.3	※※※	♂ > ♀		1265	<	1379	2644	47.8		♂ = ♀	無
洗足池	232	>	155	387	59.9	※※※	♂ > ♀		324	>	261	585	55.4	※	♂ > ♀	有
水元公園	76		67	143	53.1		♂ = ♀	⇒	42	>	37	79	53.2		♂ = ♀	⇒ 有
舎人公園	76		43	119	63.9	※※	♂ > ♀		105	>	60	165	63.6	※※※	♂ > ♀	有
市川野鳥	120		167	287	41.8	※※	♂ < ♀		136	<	176	312	43.6	※	♂ < ♀	有
じゅん菜池	281		274	555	50.6		♂ = ♀		361	>	309	670	53.9	※	♂ > ♀	無

※	p < 0.05
※※	p < 0.01
	p <
※※※	0.001

[表] 越冬地ごとにおける2ヶ月間のオナガガモ個体群の性比 (左)2002年 (右)2004年

場所による性比の違いをもたらす要因について、その水域の面積、他の水域との地理的關係などで比較してみたが、有意な關係はみられなかった。越冬期はつがい相手を見つける時期であるため、雌雄の行動に異なる傾向があり、それが場所による性比の偏りをもたらす可能性はあるかも

しれない。また、オナガガモは餌付けを容易に受け入れる傾向があり、そのことも影響する可能性がある。これらの要因について考察する。